

# 京都、魔界って ホント魔界!?



知りたいような知りたくないような…都が存在した京都は、昔からいわくありげな場所が多く存在する。言わば霊界の聖地!? すっかりアイドル化した安倍晴明の清明神社はすっかり観光地となったものの、掘ったら山のように出る京都の不思議話。嘘から出た誠、話というものにはおひれはひれが沢山つくもの。そんな中でも名の知れたスポットを紹介。京都のクソ暑い夏にひんやりするお話。知っているのが当然、知っていなけりゃ恥ずかしい!? もう一度おさらいしておきましょう、京都メジャー霊界スポット…。

# 深泥池

## 京都を走るタクシー界の常識!?

「こういう話をする、真」先に挙げられる「出る場所ランキング第一位」と言っても過言ではない、深泥池（みぞろがいけ）。字面だけでもう何かあるって言っているようなもの。底なし沼状態のこの池、昔は池の近くに病院があったというんだからナチユラルお化け屋敷である。この場所の不気味さゆえに伝説も多数存在。中でも「タクシー怪談」は超有名。池周辺で女性をタクシーに乗せると、いつの間にか後部座席には女性の姿は消え、シートが濡れているやらないやら：タクシーの運転ちゃんに聞けばこのような話がわんさか出てくる。京都のタクシー運転手マニユアルがあるなら、注意事項欄の一番最初に書かれているはず。「例え綺麗なお姉様でも、深泥池周辺で一人の女性をひろうのは危険です」と……。

# 貴船神社

## 元祖・ストロールドールの場所

草木も眠る丑三つ時……これを耳にするだけで身の毛がよだつ。丑の刻参りが主題である能の謡曲「鉄輪」はここ貴船神社が舞台となったものだそう。白装束に頭には蠟燭3本。片手にはお人形、もう片方には15.5cmの釘。アレですアレ。そんな姿、秋頃に見たら無理矢理「ハロウィンちゃんかい」と自分を納得させることができるような気もするのですが、絶対見たくねえ。水や縁結びの神として知られる一方で「呪詛神」としての顔をもつ貴船神社。時折、山奥で新しいお人形がお目見えするとかしないとか……いや、もしかしら誰かがフィギュアとして飾った、森のインテリアかもしれないのでお手は触れないように。こんな伝説がなくとも、深い森に位置するこの場所ってだけで恐いのに、伝説がさらに拍車をかけますわな。京都の夏の避暑地と知られる貴船この伝説が1度か2度は気温を下げているのかも……。

# 清滝トンネル

## トンネルの距離は果たして何m?

「暗い、狭い、怖い」と三拍子揃ったトンネルって場所も、心霊スポットには欠かせないファクターの一つ。で、京都のトンネルの中でも有名な清滝トンネル。幅は車1台分しかなく一方通行のため入り口には信号が設置されている。トンネルに差し掛かった時に、「信号が青のまま入ると向こうの世界に行ってしまう」ともっばらの噂。青の時間が短いから事故故らないようにということなのかもしれないけど、やっぱり怖い。どんなに急いでいても、この教訓は従ってしまうはず。また行きと帰りじゃ距離が違うってのもメジャーな話。いやもしかしたら気の持ちようなのかも。行きはヨイヨイ帰りは……って言うもんね、体内距離は恐怖心で変わるのかも。ちなみにここを抜けた場所は蛍や紅葉でも有名な場所。紅葉シーズンをちょっとばかり先取りして訪れると、違ったモノも鑑賞できるかもです。

# 下鴨静原大原線

## その名も「幽霊街道」大原までの道険し。

「幽霊街道」。まさにといった別名がつくこの道路。大原へ行くときに通る道である。鬼谷橋付近で何度も目撃されるのがまたしてもレディ。ホラー映画でもそうだけど、幽霊は女性のほうがなんとなく絵になるもんね。この話は70年代に大きくフューチャーされ、世間（京都）を騒がせた……らしい。現在は、道路の拡張工事によって昔の風情も消えてしまいい、ドライブには見晴らしのいい道となってしまった。目撃情報も今はないとのこと。素敵な夜景にレディもうっとりして、お空に飛んでいったのかもしれない。

# 五条トンネル

## チューボーの根性試し強者はこうしてつくられる

有名な「五条トンネル」。五条通を東進し、東大路通を越えたと山科に至るこのトンネルに出会う。車で走ったことしかない人にはわかりにくいかもしれないが、車道に沿って歩行者用のトンネルがある。肝試しに根性試し、あらゆるシーンで大活躍なトンネルだ。その昔、山科の中学にや気合いの入った中学生が多かったのはこのトンネルのお陰なんじゃないかと思うのだが、今はどうなんだろう。いずれにせよ、山科に限らず有名なトンネルである。撮影に行ったら、トンネル内の入り口付近に人影がひとつ。見ると男性がひとり、詩吟だか浪曲だかの練習をしている。カメラを手に近づくと、声を出すのをやめて一休み。「あ、すみません。こんにちは」「あ、どうも、こんにちは」。トンネル内の撮影を手早く済ませ、帰り際に「どうもお邪魔しました」「いえいえ、どうぞどうぞ」。編集部に戻る道中。「ちよつと待って……、今の、オレ、見えちゃった?」。写真を現像。よかった。写ってる……。



# 東山ドライブウェイ

## ビックリマークの意味にビックリ!

道路標識も色々存在するが、黄色に黒の「!」マーク。車両または路面電車の運転上注意の必要がある際に表示される「その他の危険」。要は他の警戒標識に分類できないからこのマークがつけられる。果たして、ここ東山ドライブウェイでは何の危険を促しているのか? 位置するのは蹴上から東山ドライブウェイに入り、將軍塚へ向かう間の地点。言わずもがな、いや聞くのも怖い「幽霊に注意」との噂があるのだ。ここを過ぎれば、東山トンネル(清滝トンネル)と引けを取らない場所、鳥辺野へとつながるのです。そりゃあいはりますよ、逆にいないとおかしいくらいです。もしど

こかで「!」マークをみつけても、あまり詮索しないようにしましょう。「!」マークにびっくりして、事故にならないようにくれぐれも注意を...



# 首塚大明神

## ここには埋まってはります。

住所としてはギリギリ西京区。場所は9号線を西に向かい、老之坂峠を越えたあたり。老之坂峠のある大江山にいたとされる鬼を退治して、首を祀った首塚大明神。周辺集落は廃村となり、今ではかなりひっそりした場所。「鬼十神社十山」そして極めつけのネーミング「首塚」。火のないところに煙は立たぬと申しますが、ここは火元があり過ぎです。この道のりには廢屋や廢モーターも存在し、彼らが棲みつく恰好の場所とも言えます。逆に言えば、人が寄りつかないから住みやすいのかも?!



# 六道の辻

## あの世とこの世の道先案内人は...

鴨川を渡り東に向かう松原通り(旧五条通り)。清水さんに向かう道として知られるが、かつての葬送の地であった鳥辺野にも通じる。あの世とこの世を彷徨う六道の世界。ここはあらゆる

世界のお方が行き来する冥界ストリート。道先案内人は、昼は役人、夜は閻魔大王に仕える冥官という顔を持つ小野篁(おののたかむら)。安倍晴明がジャニースなら彼は悪役



商會?今も道の中ほどにある六道珍皇寺の閻魔大王の隣に物々しい形相で鎮座している。さらにここに相応しいアイテム「幽霊子育て鉢」がある。何とも曰くありませんが、もちろん暑い夏をヒンヤリさせる伝説アリです。知りたい人は、このストリートに訪れるべし。この道で鉢なめながらウロウロするのは、原宿でクレールくらいに王道感とは一味も二味も違います。

# 小関越え

## 渋滞知らずの理由がわかる...

滋賀県在住の人なら、「憶えておいた方がよい」と言われる抜け道がある。逢坂山を越えるのに、R1も、西大津バイパスも渋滞、高速は通行止め、なんて八方ふさがりなとき、確かにこの道は素晴らしい。そんなに便利な道なら、いつの間にかメジャーになって、「結局こゝも渋滞するようになったかあ」と途方に暮れるのが関の山なんだが、常に渋滞知らず。ああ本当に素晴らしい。

京都市内から旧三条通をどんつきまで走り、大津市に抜ける。一瞬R1と併走する測道を通り、山道に入って、大津市の長等神社あたりから大津赤十字病院の裏手に至る。通称「小関越え」。とにかく山道が怖い。トンネル並みに木が生い茂り、しかも街頭がない。夜に車で走って、ライトを消そうものなら数秒で山肌に激突必至の真っ暗闇。その山の頂点付近、ヘッドライトに突如として照らされる祠がある。うっかり、近所さんがその祠の中でくつろいでいるものならもう大変。しかも山を下りきって住宅地に入る手前が墓地。デート中に無灯走行におよび、彼女に「どうや、怖いやろ〜」「キヤ、やめて〜」てなバカを繰り返した男子がいた。あるとき飲み屋で「あそこ怖いなあ。何か出そうやん」と軽く店主に聞いた。店主が答えて曰く、「え?何を言ったはりますの?あの道、(出るで)有名ですよん。」「え?」。彼は二度と夜間に小関越えをしなくなったという。いつでも道が空いてるわけだよ...

